

1. 学校名 対象 (学年、人数)

飯田市立遠山中学校 (2学年、7名)

2. 探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1) 活動テーマ

学有林を中心として木材の活用や林業を学ぶ

(2) 目 標

② 学有林学習を踏まえて、林業についての理解を深める。

②ものづくり体験を通して、自分たちの作ったものが活用される喜びを味わう。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

多様性 (多種多様な現象が起きていること)

公平性 (一人ひとりを大切に)

相互性 (関わりあっている)

連携性 (互いに連携・協力すること)

有限性 (限りがある)

責任制 (責任を持って)

その他 ( )

②育成する資質・能力

批判的に考える力

他者と協力する力

未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度

多面的・総合的に考える力

進んで参加する態度

コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDGs



11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任、つかう責任

15 陸の豊かさを守ろう

(5) 探究課題・活動実践の概要

探究課題「学有林をもっと良い山 (豊かな場所) にするには、どうしたらよいだろうか」

→学有林に実際に行って活動したり、学有林にある資源をどのように活用するかを学習する。

3. 流れ (指導計画の概略)

①令和4年度「学有林学習」において、学有林という存在自体に触れ、興味関心をもつ。

→生徒の中に「学有林をもっと良い山にしていきたい」という願いが生まれる。

②木材の流通と活用する方法を知る目的で、地元の森林組合のプレカット工場を見学したり、Shop-Bot という木材加工用機械でイス作りを体験したりする。

③令和5年度「学有林学習」において、林道整備をおこなう。

④令和5年度「地域の方に学ぶ会」において、学有林の木材を活用して、ベンチ作りをおこなう。

→実際に学有林の木材を活用する体験となり、人やものつながりや循環の大切さに気づいた。

4. 効果・反応・所感

学有林学習は、年に一度だけ PTA の活動として行っているが、それ以外で学有林について触れる機会というのはそこまで多くない。しかし、今回の活動を通して、学有林のことを自分たちの学校の財産として考えていく姿が見られた。またその中で、学有林をもっと良い場所にしていくためにできることは何かという主体的な考えや、木材を活用していくには多くの人達が連携していくことが大切であるという気づきが見られた。学有林を通して、林業やものづくりという視点だけでなく、SDGs における学びも自然

と深まっているのではないかと考える。

5. 指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

イス作り体験は、民間企業（合同会社伊那谷サラウンド）にご協力いただいた。必要経費は飯田市ムトス支援事業に補助をいただいた。